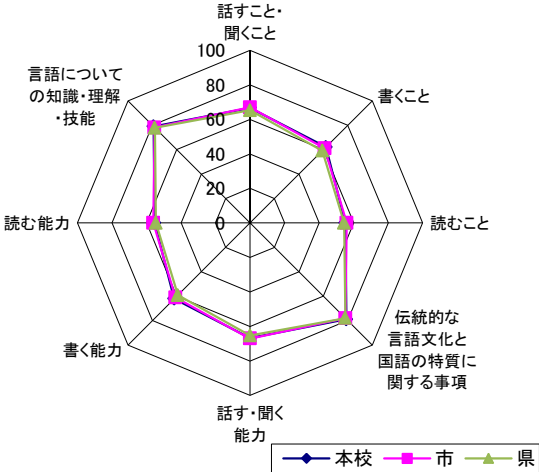


宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	67.0	65.3
	書くこと	62.1	61.1	59.2
	読むこと	55.3	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.0	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	66.7	67.0	65.3
	書く能力	62.1	61.1	59.2
	読む能力	55.3	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	79.0	78.2	78.0



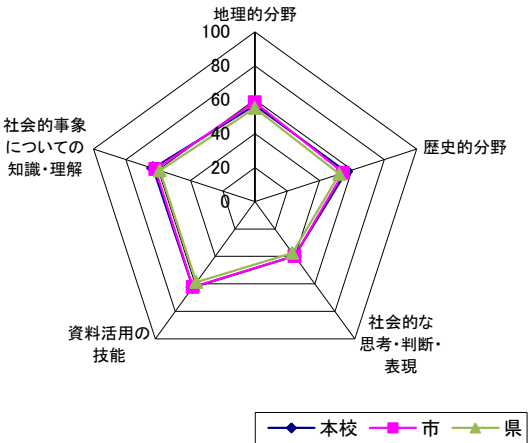
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県平均を1.4ポイント上回っている。話し合いの進め方の工夫についてよく理解できている。 ●市の平均と比べると0.3ポイント下回っている。設問別に見ると「自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く」という記述式の問題の正答率が低かった。記述式の問題に弱い傾向がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業や生活の中で、より効果的に相手に伝えるために、どのような工夫をするべきかを意識した話し方をできるようにする。そのために、授業でペアやグループでの話し合い活動を積極的に行い、意見を交換する機会を多く設ける。また、プレゼンテーションの授業を行い、お互いに発表を見て良かったところを教え合うなど、話す・聞く活動を意図的に設定し、苦手意識を克服する。
書くこと	○平均正答率を市や県と比べると、市平均を1.0ポイント、県平均を2.9ポイント上回っている。これは他の領域と比べ、最も大きく上回る結果となった。特に目的に応じて推敲する問題での正答率が高かった。 ●「文章の書き方の工夫について記述する」問題では、正答率が14.5ポイントと低かった。やはり、記述	・文章の書き方の工夫について記述する設問に対する正答率が低かった。文章を書くにあたって、どのような点を工夫したらよいのか分からない生徒が多い。普段から自分の考えを書いたり、感想を書いたりしているが、より分かりやすく文章に表すための技能が身に付いている生徒が少ないと思われる。説明文の文章構成などを参考に、相手に伝えることを意識した記述の練習を繰り返し行う。
読むこと	○市平均からは0.7ポイント下回り、県平均からは0.8ポイント上回っている。登場人物の心情を捉える設問は高い正答率だった。 ●説明文の正答率と文学作品の正答率を比べると、やや説明文が苦手な傾向にある。文章の展開に即して内容を把握する設問が特に低かった。	・説明文は難しい言葉が並び、内容が分からなくなっているが、接続詞を理解し、構成を捉え、丁寧に読むことで理解できるようになる。普段の授業から文章構成についての指導をしているが、容易に理解できる生徒とそうでない生徒の差があるので、授業の中で、個別の指導や生徒同士の教え合いをすることで、理解を深めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は79.0ポイントと他の領域と比べて高い。市の平均を0.8ポイント、県の平均を1.0ポイント上回っている。全体的にみると、歴史的仮名遣いや文節の設問などもよくできており、言語の力が身に付いている。 ●平均だとよくできているように見えるが、漢字の読みで正答率が低い設問もあった。また、漢字の成り立ちについても理解不足がうかがえる。	・言語に関する指導は積み重ねが大切なので、漢字の読み書きについては、授業の最初に新出漢字などの小テストを行い、定着を図る。また、平均正答率が高い生徒と、低い生徒で理解の差が大きいので、基礎的・基本的な知識の定着に向けた個別指導が必要である。特に文法に関する分野では、理解不足のまま次の学習に進んでいる生徒もいるので、以前の学習を振り返って再確認する機会を設ける。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	56.8	58.4	55.0
	歴史的分野	56.5	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	39.7	39.8	37.5
	資料活用・技能	62.5	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	63.1	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

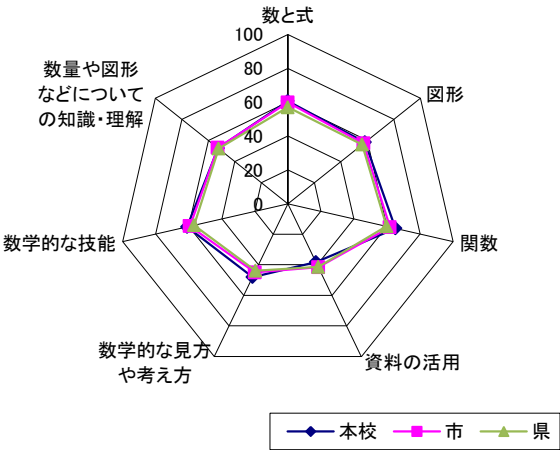
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	全体的には、県を1.8ポイント上回ったものの、市よりも1.6ポイント正答率が低かった。世界の地域構成の選択式及び北アメリカ州の短答式に関する資料の読み取りや地理的事象の理由に関して正答率が低かった。 ○世界各地の人々の生活と環境及びアフリカ州に関する「基礎」の設問は、市を4～7ポイント上回るなど正答率が高かった。また、グラフから特徴を読み取って記述する問いで、5.6ポイント市を上回った。 ●北アメリカ州の複数の資料から特徴を考察する「活用」の設問は、多角的に読み取る力が不足しており、4.34ポイント市を下回った。 ●選択式の設問には対処できるものの、短答式の正答率が低く、重要語句の定着度が不十分な生徒が多い。	・各単元において、教科書の重要語句やノートの赤字、手持ちのワークを再度見直させるなどして、知識の定着を図っていく。 ・一問一答形式で重要語句の暗記を促し、小単元テストを行うことにより、基礎・基本のさらなる定着を図っていききたい。 ・また、継続的に教科書に掲載されている資料を的確に読み取らせるとともに、その事象について考えたり、自分の言葉で表現する力を身に付けさせたい。 ・今後とも、デジタル教材を有効に活用し、グラフ等の変化や推移を視覚的に読み取らせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力の向上を図っていく。
歴史的分野	全体的には、県より4.3ポイント、市より1.9ポイント正答率が上回った。選択式の設問には対処できるものの、短答式は設問によって正答率が大きく変動する傾向が見られ、重要語句の定着度が不十分な面がある。 ○中世の日本に関する「基礎」、「活用」の設問は、7問中6問で市を4～13ポイント上回るなど正答率が高かった。 ●古代までの日本に関しては、設問によって正答率にばらつきが見られる。特に、短答式で正答率が市を6～9ポイント下回っており、重要語句の定着度が不十分であると思われる。	・各単元において、教科書の重要語句やノートの赤字、手持ちのワークを再度見直させるなどして、知識の定着を図っていく。 ・一問一答形式で重要語句の暗記を促し、小単元テストを行うことにより、基礎・基本のさらなる定着を図っていききたい。 ・また、継続的に教科書に掲載されている資料を的確に読み取らせるとともに、その事象について考えたり、自分の言葉で表現する力を身に付けさせたい。 ・今後とも、デジタル教材を有効に活用し、視覚的に事象をとらえさせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.6	59.8	57.0
	図形	58.2	57.1	56.1
	関数	65.2	61.8	59.8
	資料の活用	38.2	41.6	41.4
観点	数学的な見方・考え方	48.0	44.9	43.9
	数学的な技能	61.0	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	52.6	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

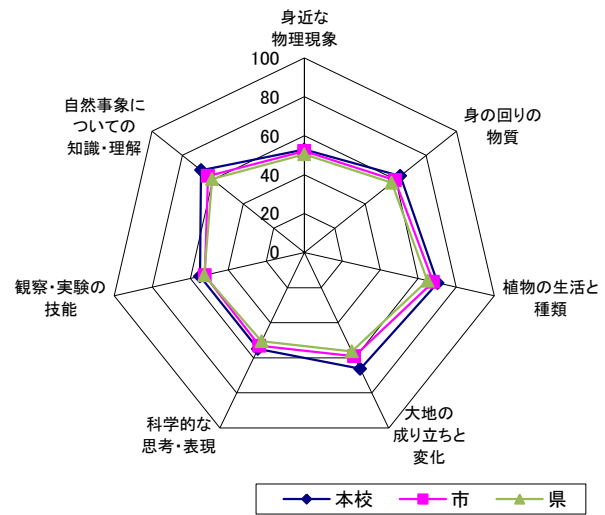
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。特に、1次方程式を解く問題は、市のものより3.6ポイント高い。その他にも、ほとんどの設問で市より上回っている結果が得られた。 ●一方で、問題場面における数量関係を不等式に表すという設問の平均正答率は、市より1.2ポイント低くなっている。	・今後も授業中の最初に行っている「プリントによる計算問題の復習」を継続して行い、生徒たちの計算に対して慣れ親しむ指導を行いたい。 ・不等式の問題は、普段から慣れておかないと方程式の問題と混同するので、不等式の問題もなるべくたくさん解くようにする。
図形	○平均正答率は、市の平均正答率より1.1ポイント高い。特に、三角形の移動について、点Oと直線を用いて説明する設問や垂線の作図の設問の平均正答率は、市の平均正答率より高い。 ●一方で、円柱の側面積を求めるという設問の平均正答率は、市の平均正答率より4.9ポイント低くなっている。	・作図を書く問題を解く時間をかなりとってきた成果が現れたと考えられる。これからも継続して、図をかく問題をたくさん解かせたい。 ・図形の側面積を求める問題は、自分で図を描いて見取り図から展開図にするなどの力が必要なので、このような力を身につけさせるような問題をたくさん解かせたい。
関数	○平均正答率は、市の平均正答率よりも3.4ポイント高い。特に、反比例の関係について、正しい説明を選ぶ設問と一定の距離だけ離れるまでの時間を求める設問の平均正答率は、市の平均正答率より高い。 ●一方で、 $y=2x$ のグラフをかく設問の平均正答率は、市・県の平均正答率とほぼ同じになっている。	・反比例の問題に対する抵抗感がない生徒が多いので、これからも折に触れ、反比例の問題に触れる機会を設けていきたい。 ・比例のグラフをかく問題に対する苦手意識がある生徒もいるので、比例のグラフの書き方を、もう一度丁寧に説明し、理解させた上でたくさん問題を解かせ、慣れさせていきたい。
資料の活用	○度数分布表にあてはまる度数を求める設問は、市の平均正答率とほぼ同じである。 ●一方で、ヒストグラムに関わる設問の平均正答率は、市の平均正答率よりも大きく下回っている。また、ヒストグラムから最頻値を求める問題の平均正答率も、市の平均正答率よりも下回っている。	・資料の整理の内容全般的に苦手意識がある生徒が多いので、階級値・相対度数・ヒストグラム・最頻値など用語を理解させた後、問題演習をすることで、内容の定着を図りたい。 ・もう一度最初から教えるつもりで、時間をかけ指導していきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	52.9	52.1	50.5
	身の回りの物質	63.1	59.6	57.4
	植物の生活と種類	70.2	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	66.3	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	54.9	53.1	50.6
	観察・実験の技能	54.9	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	67.8	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

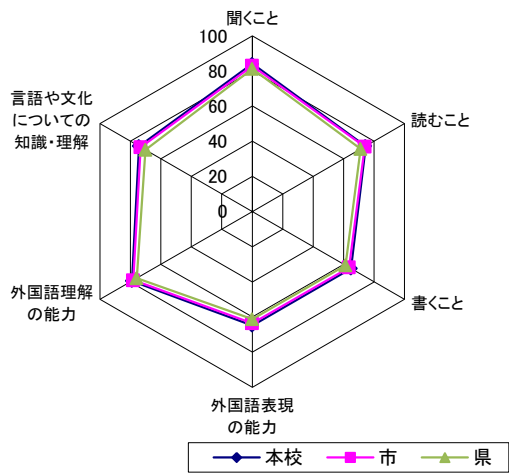
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○市平均を0.8ポイント、県平均を2.4ポイント上回っている。特に「物体にはたらく重力の大きさを表す」問題の正答率が高い。 ●4領域の中で最も正答率が低く、特に「音」に関する問題の正答率が低い。	・多くの生徒は観察・実験に意欲的に取り組んでいるため、物理現象をより身近なものとしてとらえさせたい。特に光や音などの単元では、実験によって発生した現象が日常にも起きていることを踏まえて学ばせたい。またこの領域を苦手としている生徒が多いため、今後学習を積み重ねていくうえで混乱のないよう、ワークシートや補助教材を用いた繰り返し学習を行い、定着を図りたい。
身の回りの物質	○市平均を3.5ポイント、県平均を5.7ポイント上回っている。特に「密度を求めて物質を特定する」問題では高い正答率を示し、メスシリンダの使い方や計算方法が身に付いている。 ●「物質の状態を粒子のモデルで表す」問題などの活用問題を苦にしている傾向がある。	・モデル・図の活用や、実験の条件を変えた場合の結果の変化など、応用力が不足している傾向が見られるため、これらの理解を高めるための授業改善に努めるとともに、ワークシート等を工夫して定着を図りたい。密度や濃度に加え、今後も計算問題が多く出てくる単元なので、計算方法のみならず、その計算式が使える理由なども含めて理解を深めさせたい。
植物の生活と種類	○市平均を2.4ポイント、県平均を5.3ポイント上回っている。花のつくりや植物の種類とその違いについて問う問題は正答率が高く、よく理解できている。 ●特徴から植物を分類する問題や、その理由を説明する問題の正答率が低い。また、操作が複雑な顕微鏡の操作については、ガスバーナーの操作と比べて正答率が低い。	・植物のつくりや特徴などの基礎知識は定着しているが、それらを利用して植物を分類するなどの応用問題の正答率が低い。グループワークなどの形式で生徒主体の言語活動を充実させ、課題設定や課題解決の場を設けることで、知識を活用する力を養いたい。また、観察・実験の考察や発表の指導を通して、自分の考えを表現したり、多様な考えにふれる機会を設けたい。
大地の成り立ちと変化	○市平均を7.2ポイント、県平均を10.0ポイント上回っている。全体的に高い正答率となっている。特に、地震や火山についての知識・理解を問う問題がよくできている。 ●「地層の様子から海の深さを推測する」問題など、知識を活用する問題は、県や市の正答率を上回っているものの、知識を問う問題と比べると低い。	・生徒は岩石標本の観察等に意欲的に取り組み、岩石のでき方や含まれる鉱物の特徴についてよくまとめていた。学習時期も正答率の高い理由に挙げられると思うが、興味を持って学習したことが定着につながったと思う。地域の地形や最近の天気など、日常に絡めた話題を出しながら、学習を展開したい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	84.0	82.9	81.2
	読むこと	74.4	73.9	71.2
	書くこと	64.8	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	64.8	63.6	61.2
	外国語理解の能力	79.0	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	74.4	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○県の平均から3.8ポイント、市の平均から1.1ポイント上回っている。 ○対話文全体の中から、必要な事柄について把握する力に優れており、内容に合致するよう答えることができています。 ●質問などに対する適切な答え方になると正答率が下がっている。内容把握だけでなく、自分との対話になったときの受け答えなど、会話のしかたを想定できるようにしたい。	・授業の中での英語でのやりとりを増やすとともに、様々な形の質問に触れることで適切な答え方が身につくように考えられる。教師と生徒、生徒同士の英語でのやりとりをさらに工夫し授業を展開していけるようにしたい。 ・教科書の本文だけでなく、様々な内容のリスニング教材を扱えるようにしたい。 ・テレビやラジオを使っての英語に触れる機会なども紹介していくようにしたい。
読むこと	○県の平均から3.2ポイント、市の平均から0.5ポイント上回っている。 ○文章全体を読んだときに、大意の把握や要点をつかむことに優れている。前後の文脈の関係や内容のつながりをもって読み取れている生徒が多い。 ●内容の細かな点の確認や、問われている部分を全体の中から見つけ出すのは苦手としている生徒が多い。必要なポイントを見つけられるようにしたい。	・大意や要点をつかむ活動はこれからも継続していきたい。文章の大きな把握をするための質問とともに、内容について正誤を問う問題など、内容理解の指導法を工夫したい。 ・文章のポイントを問う質問では、質問内容の確認とともに、全体のどのあたりに書いてあるのか、関係する単語はどんなものがあるかなど、読み取るための考え方なども指導していきたい。 ・教科書以外の文章を取り入れるなど、多くの英文に触れる機会を作れるようにしたい。
書くこと	○県の平均から3.6ポイント、市の平均から1.8ポイント上回っている。 ○与えられた単語から文を構築すること、質問文に対して答えることなどの内容に優れている生徒が多く、自分の立場で答えられている。 ●文のつながりをもってまとめた内容で英文を書くことは不得手としている生徒が多い。 ●答えを持っているが正確性に欠け、スペルミスや文法のミスが目立っている。	・文の内容を意識しながら、前後の関係をもって英文を書けるようにしていきたい。これまでの文プラスワンを作れるよう例を示すとともに考える時間を作り、内容に広がりを持たせるための考え方や指導をしていきたい。 ・より正確性を持って英語を書けるよう、単語や文の確認とともに、練習する機会を増やしていきたい。 ・誤りを確認するだけでなく、正しい英語を示していくことで生徒にフィードバックする機会を多くしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○

1) 学びに向かう力「自己有能感」

- ・「自分にはよいところがあると思。」県より8.4ポイント、市より6.6ポイント高い。
 - ・「自分の行動や発言に自信をもっている。」県より8.4ポイント、市より6.1ポイント高い。
- 以上から学習の原動力となる自らの効力感や肯定感が高く、意欲的に学ぶ姿勢が高いことがわかる。

2) 自ら学ぶ力「学習スキル」

- ・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」県より11.2ポイント高い。市より8.6ポイント高い。
- 以上から身の回りにあるものを有効に活用して自ら主体的に学ぶ態度や習慣ができていくことがわかる。ただし、A層とD層の差が26.1ポイントあり、D層への指導が課題である。

3) 学びを律する力「学習のけじめ」

- ・「授業を集中して受けている。」肯定回答割合が94.9%のA層とD層の差が5.8ポイントと低い。
- 以上から授業態度が良く、集中して話を聞き、真面目に学習に取り組んでおり、学習に対する意識が高い。

4) 学級力「支え合う力」

- ・「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している。」県より8.7ポイント、市より9.0ポイント高い。
- 以上から、学級においてグループなどで積極的に話し合い活動に参加しており、学び合う集団の形成ができていくことがわかる。ただし、A層に比べてD層の意識が17.4ポイント低く、D層への指導が課題である。

●

1) 自ら学ぶ力「学習スキル」のA層とD層の差が大きい。

- ・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」A層とD層の差が26.1ポイントある。
- 以上からD層の生徒に対し、身の回りにあるものを有効に活用して、自ら主体的に学ぶ態度や習慣を身に付ける指導が大切である。

2) 学級力「支え合う力」のA層とD層の差が大きい。

- ・「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している。」A層とD層の差が17.4ポイントある。
- 以上から、D層に対し、学級においてグループなどで積極的に話し合い活動に参加して、学び合う集団の形成をする指導が大切である。